

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871900445		
法人名	株式会社 ほーむけあいしやま		
事業所名	グループホーム感感		
所在地	茨城県牛久市東大和田312-2		
自己評価作成日	平成 29 年 6 月 1 日	評価結果市町村受理日	平成29年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=0871900445-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成29年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者さまお一人おひとりのホーム入居以前の生活内容を確認し、その確認内容に基づきホームでの生活に支障がきたすことの無いよう、最初の取り組み方として職員全員にて話し合いを持ち、不適切ケアにならぬよう努めている。
また、毎月の職員会議には全ご利用者様に対しての生活全般の評価を行い、「ホームで生活をしている」ということをご利用者様が見失わないよう、利用者への傾聴と共感に重きを置き、お一人おひとりの個性を大切に、ご利用者様の居場所づくりや役割づくりに心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年5月に開設。自治会に加入し、クリーン作戦・新年会・イベントに参加している。毎年、施設の秋祭りには地域住民との交流会として回覧板等で参加を呼びかけており、子供も含め100人余りの地域住民の参加がある。災害時に、公民館受け入れや夜間帯の協力等の協定を地域と文書で取り交わし、抜き打ちの避難訓練や勉強会を開催するなど、災害対策に積極的に取り組んでいる。また食事を大切にしており、ユニット毎に利用者の希望を聞いて献立を作り、それぞれに利用者と同じ物をして新鮮な季節の食材を使い、下ごしらえ等を利用者と一緒に行う家庭的な雰囲気の中で日々の食事や行事食を楽しめるよう工夫している。管理者はじめ職員も利用者の思いに寄り添うケアや利用者のその日の思いを職員で共有し統一したケア、終末期から看取りケアまで実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内数か所に、独自の理念や職員心得が掲示され、毎朝の申し送り時にそれを復唱し、職員が介護についての方向性を見失う事の無いよう努めている	法人とホームの理念があり、リビング、事務所等に掲示している。毎日理念を唱和し、会議も理念を述べてから会議を始め確認している他、年間・月間目標も作り支援している。今月の目標は「業務標準化と実践」で、統一したケアに取り組んでいる。職員からは利用者が自宅に居る時と同じように自由に、楽しく過ごして頂けるよう支援しているとの話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域において、ご利用者様と共に生活を営んでいる事を職員の姿勢として自覚することに努めている	自治会に加入し、クリーン作戦・イベント等に参加。年1回の事業所主催の交流会には地域の子供たちも含め100名ほどの参加があり、地域の方の楽しみとなっている。野菜を頂いたり、散歩時には挨拶を交わし、見守りにも協力してもらっている。介護相談を受けることも多い。地区の方をお願いして施設裏の道路に防犯灯(2灯)が設置された。ボランティアの訪問も随時あり。(傾聴・踊り・大正琴・歌等)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域生活共同体の一員として、職員はその知識・技術等々を地域にフィードバックすべく施設全体を開放(個人情報漏洩等には細心の注意を払い)し、地域の相談援助となるよう心掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時において運営推進会議構成員から忌憚のない意見を聴き、ホーム運営に反映されるよう、事業所会議等にて検討し、ホーム運営改善に努めている	2か月ごとに利用者・家族・介護相談員・議員・区長(民生委員も兼務)・地域住民・行政・医師や時期に応じて消防署・保健所からの参加がある。時期に合わせて、避難訓練・食中毒予防・感染予防(手洗い方法など)等訓練・研修も兼ねて実施され、各関係者の学びの場としても活用されている。参加できない家族等にはお便りにて報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員派遣事業を受け入れ、意見交換や情報収集等々の機会を得ている。また、市担当者に対して、困難事例が発生した場合等において相談等を持ちかけ回答の機会を得ている	月1回介護相談員の訪問があり、市からの情報を受けたり、意見交換を行っている。地域包括支援センターや介護福祉課、社会福祉課や社協と密に連絡を取り協力関係を築いている。地域密着型連絡協議会やケアマネ会に参加し情報交換を行っている。中学生の体験学習の場として提供している。施設ボランティア担当者会議や市の福祉祭りに参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対に身体拘束をしないという事を職員の自覚として徹底させ、また、その啓蒙活動を職員全体で行っている	毎年4月に身体拘束についての勉強会(事例検討等)を実施しており、今まで一度も拘束はない。家族から転倒予防としてベッド柵の要望があったが、見守ると話した。外出傾向がみられた時は、見守り用エプロンと介護中の札をつけて一緒に出掛けている。スピーチロックについては、職員同士が注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	いかなる場合においても許される事ではないことで、職員間において互いの取り組みであることと自覚し、その啓蒙活動を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所会議等の場において、本部に在籍している制度習熟職員の下、勉強会を開き知識の蓄積に心掛け、制度を必要としているご利用者様へのフィードバックに努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム生活に対する戸惑い、不安を払拭すべく、新入居ご家族の話聴き、どこに疑問点があるのかを判断し、資料等を参考にしながら、説明に対する理解を深めていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対して、ご家族から直接発信されて意見や、アンケート記入の意見等々を事業所会議にて検討し、適切なホーム運営に結びつくよう心掛けている	利用者の要望や意見は日々の支援を通して聞き、支援に繋げている。玄関にアンケート用紙を用意。家族からは家族会・運営推進会議で要望を聞いたり、面会時に意見を聞いたりしている。家族から「看取り」について聞きたいとの要望あり、説明会を行って家族より安心したと感謝される。利用者・家族の意見は記録に残し職員全員で共有し、運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から発信された意見等は、定期的に行われている管理者会議にて必ず検討の対象になっており、全事業所の共通問題として、ホーム運営に反映されている	職員から出た意見は職員会議で話し合い、管理者会議で検討している。年一度部長と話し合う機会(自己評価・メンタル等)を設けている。職員からは管理者の方から声かけがあり、話しやすいとの話があった。反映例として、予防接種助成金と夜勤者の食事代を検食とした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から発信された意見が沈滞してしまう点を考慮して、代表者へ届くよう部長職の職員による面談の機会が設けられており、代表者に届いた意見は検討され、就業環境整備の要因になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の知識・技術の保持状態を常に確認把握をしており、必要に応じての外部の勉強会及び、研修会等への参加の機会を提示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流等を含めた地域交流会の開催が設定されており、その場において常に意見交換等が行われ、職員の意識向上に繋がっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期は、特に気を配りながらご利用者様のプライバシーに配慮しつつ傾聴に努めている。そして、入所前の状況や環境の違いが何かを模索し、常に改善を心掛け、信頼関係を築ききっかけとしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が入所に対しての戸惑いを感じている心の奥底を真摯に受け止め、初期はとにかく傾聴するように努めている。色々な思いを持っている事は理解出来たという事を知っていただき、信頼へと繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聴き取りの際、詳しく状況を伺い、今までのご利用者様の事例と照らし合わせつつ、サービス内容と支援内容を考えて対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助の前に一度ご本人に確認をする等同意を得て介助に努めている。意思の疎通がうまく出来ないご利用者様に対して、色々試しながら最善の方法を模索し、表情やしぐさ等々から意思を読み取るように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様本人と同等にご家族の思いを大切にしながらの支援を考えている。ご家族にも分からない事柄については職員から提案をさせていただき、了承を得て両者の気持ちにわだかまりが発生しないよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の面会等について、ご家族に確認を取り、ホームでの生活中で今までの関係が断ち切られることの無いように快く受け入れ、また、馴染みの場への外出等に対して喜びが実感できるよう支援している	面会、手紙、電話(携帯を持っている利用者もいる)は家族の了解をとり支援している。馴染みの場所へ職員と外出している(スーパーへの買い物、馴染みの床屋や近くの床屋に行ったり、歯医者を受診等)。馴染みの人との関係継続にも努めている。自宅の様子が気になる利用者には車で自宅周辺を一回りすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な方々が共同生活をしているという事で、その相性等に配慮した席替えや、会話等のきっかけを職員から投げかけるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も交流のきっかけとして、地域交流会へのお誘いをする等取り組みを行っている。実際ご家族が足を運んで下さりアフターフォローへと繋げることが出来た		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様各々の居室にそれぞれ馴染みのある家具や置物、馴染みのある日用品の持ち込みを可能とし(安全範囲内で)施設という感覚を無くすように努めている	日々の会話、表情、様子、生活歴や回想から利用者の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。行きたい所や食べたい物の希望を聞き、買い物・家の見回り・ドライブ等や食事献立に取り入れるなど希望を叶えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の居室状況や、ご家族との面会等において収集されるご利用者様の情報から、ライフスタイルを知るきっかけの機会とし、職員間でそれを共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの日常生活記録を確実に取り、その変化に十分気を配り、お一人おひとりに合った過ごし方が出来るような環境作りをし、生活上の戸惑いが排除されるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	かかりつけ医、看護師、薬剤師等の所見を記録できるノートを作り、ご本人にとっての最善なケアに活かせるよう努めている	利用者や家族の要望、意見や医師の意見(居宅療養管理指導書等)や職員の気づき(業務日誌に記入)を下に、担当職員が主となってカンファレンスを開催し、計画担当者がプランを作成。毎月のモニタリングを職員会議で実施し、評価に繋げている。作成後は家族に説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本のケース記録はもちろん、その他職員間の連絡ノートを作り、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一日の生活の中には、時として事業所内サービスと共に、ご利用者様それぞれの要望等が発生するものである為、常に予定変更等々の対応がスムーズに行えるような対応に心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公共施設等を利用したり、ボランティアを依頼したりと単調な生活にならぬよう、ご利用者様が生活の中で楽しみが感じられるよう工夫している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族へ定期受診報告や体調変化に伴う受診報告等の連絡を常に行い、受診の際には前回受診からの経過記録簿をかかりつけ医に提示し、情報のやり取りに努めている	2週間に1回、協力医の往診と週1回の訪問看護で利用者の健康管理に努めており、専門医への受診も含めて状態に合わせた適切な医療が受けられるようになっている。歯については近所の歯科を利用されている。受診結果は、変化時に家族に電話で報告し、記録に残している。	利用者や家族、専門医を含めた医療関係者などの共有や緊急時の対応にも役立つように、一人ひとりの病状や受診状況、薬剤情報等を記した個人受診記録票の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の状態は記録に残し、異変があれば訪問看護や医師に連絡を取り、その指示を仰ぎ、協力体制の強化を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は入院時面会の機会を可能な限り多く設け、担当看護師等々からよく話を聞き、情報交換を行い、早期退院が出来るようご家族とも話し合いを持つことを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としての支援を入居時に説明し、また、終末期の希望をご本人・ご家族とよく話し合っている。状況の変化に伴い医療関係者を交え全職員が終末期の方針について周知し、それを実践している	基調講演(ホームドクター)を法人全体で開催。看取りの同意書は契約時以外に毎年同意書を再確認している。看取りの段階になった時、再度確認するようになっており、医師、看護師も含めて方針を共有化している。職員はエンゼルケアも学んでおり、実施している。利用者が仲間としてお見送りし、自宅に帰っていく。要望があれば家族の宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを備え、また、地域運営推進会議等の機会を利用し、基礎的な初期対応や急変時の対応等々、看護師の指導の下、訓練を重ねている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの避難訓練や自主訓練通し、全職員が冷静に対処できるように、また、近隣住居人との災害時協力体制を文書にて取り交わし、災害対策強化を図っている	夜間を想定した抜き打ち訓練や運営推進会議での地域住民参加の避難訓練も実施。結果・評価はその都度職員会議等で検討して次回の訓練に生かしている。近隣住民との災害時協力体制の覚書を取り交わしている。施設近くで電線の火事があり、近隣住民が真っ先に知らせてくれ消火し大事に至らなかった。	夜間の災害時(火事)、地域住民の協力者にいち早く到着して頂けるよう、緊急連絡の受け入れの検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の発する言葉の真の意味を理解することに努め、職員は常に共感しての関わりを持つことに心掛けている	個人の写真など個人情報に関しては同意書があり。面会簿はカード式でポスト式投函となっていた。接遇研修をおこなっており、利用者に対する言葉遣いには注意して対応している。職員からトイレの誘導の声かけに注意を払っているとの話があった。入浴の際、異性介助を拒否される方には同性介助を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな食べ物の摂取希望、外出の際の同行希望等々、日常生活において表出される感情的なものへの制約等加える事の無いよう、ご利用者様への思いを大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一般的な考え方の暮らしぶりではなく、ご利用者様の物の観かた、考え方を十分に把握しご利用者様が生活しているという実感が感じられるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様に合った身だしなみ介助を職員間において検討を重ね、おしゃれをするという日々の楽しみを奪う事の無いよう心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食材の買い出しから食事の準備、後片付けという一連の行為のついて、ご利用者様の意思が反映し、一緒に手を動かす事への喜びを感じていただけるよう心掛けている	利用者の希望を聞き、管理栄養士がユニット毎に献立を立てている。利用者も毎日一緒に食材を買いに出かけ、利用者の楽しみとなっている。誕生日会はその日に行い、誕生日の方が食べたい物を出して利用者に喜ばれている。手作りケーキも利用者と共に作り提供している。おかずは毎食4品とデザート付きで利用者の食欲増進となっている。食事作り・おやつ作り等、利用者の力を発揮できるように支援している。職員も利用者と一緒に食べており、楽しい会話が広がっている食事風景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様個々人の体調把握を十分に行い、時には医療関係者の指示の下、飲食物が適切な量を確保されるよう心掛けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の来所により、口腔内検査確認を取り、ご利用者様に合った口腔ケアを行っている。また、夜間においては、義歯は預り洗浄剤による洗浄を実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。誘導時には自尊心を傷つけてしまうような声掛けにならぬよう工夫している	夜間も含めて、オムツを使用しないケアを前提にしており、リハパン、パットを使用。チェック表・パターン・表情・様子からトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っており、改善された方が多い。こまめな声掛けにより、リハパンやパットの使用枚数を減らし経費削減と利用者の快適を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう、軽い運動を行っている。また、食物繊維や牛乳の摂取を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や一日のリズム、また、ご本人の希望に合わせて入浴していただいている	日曜日以外は、全員希望での入浴が足浴となっている。基本、日曜日は休みであるが、いつでも入浴可能であり、生活習慣にあわせて午後の時間帯にゆっくり入浴ができるようになっている。入浴剤や菖蒲湯・柚子湯等を季節ごとの楽しみも取り入れている。足浴の時は、フットケアマッサージを行っている。皮膚感染予防の為、足ふきタオルをその都度交換している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調を見ながら、休息を取っていただいている。また、居室の休息環境としての寝具類は、布団干し、定期的、或いは失禁等による不定期なシーツ交換等々こまめな対応に心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬状況を理解し、管理の徹底を図っている。服薬後の体調の様子も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等を考慮して、出来ることをしていただいている。買い物、近所への散歩、趣味などを通して気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い頃に外出や散歩、買い物等の支援をしている。ご家族の協力を得ての外出も積極的にしていただいている	天気の良い日は近くの公園まで散歩に出ている。食材の買出し、希望にそっての買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。外食やお花見、河童祭り・菊祭り等のイベントの外出や事業所間との交流会(敬老会等)など家族や地域の方々との協力し外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の思い通りに買い物ができようその機会を設け、また、買い物の際には実際にレジにて金銭のやり取りを職員が介助しながら行っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける・手紙を書く等々ご家族の了解を得て、その行為・行動に制約を加える事の無いよう注意しながら支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活を送っていただく空間として、ご利用者様が違和感無く、その場において心地よさを感じていただけるような、気温や湿度、季節感が適度に感じられるよう配慮している	玄関先に草花が置かれ、玄関には、イベント外出写真が掲示され、廊下には利用者の習字や手工作品が飾られていた。リビングの隣には和室のスペースもあり。リビングからは中庭が見え、解放感があり、廊下でユニット間を行き来できるようになっている。中庭には利用者が植えたキュウリ、ゴーヤ、南瓜等の野菜が植えられ利用者の楽しみとなっている。廊下にはコーナー等に椅子が置かれ利用者がくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりがご自分の席を認識し安心してくつろげ、ご利用者様同士仲良くコミュニケーションが出来るよう話題の提供等に工夫した		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの生活を思い合せた居室になっているので、それらを維持しながら清潔さを確保するよう心掛け支援している	居室の入り口には、写真と手作りの利用者の目線に合わせた名札が掲示され混乱防止となっている。窓は掃き出し窓で解放感があり。それぞれ馴染みの家具・テーブル・イス等が置かれ、家族の写真や作品等で飾られており、居心地のよい個室となっている。掃除は職員と行き、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行、手引き歩行、車椅子移動等々いずれにせよ、障害物や使い勝手の悪さを感じるような物品等において、職員間で常に検討を重ねている		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム感感

目標達成計画

作成日: 平成29年9月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の災害時(火事)、地域住民の協力者にいち早く到着して頂けるよう、緊急連絡の受け入れの検討を期待したい。	災害時(特に夜間時)における地域住民の協力関係を密にして、緊急連絡網の構築を迅速におこなう。	日頃からの当施設とご近所とのコミュニケーション強化(イベント等の参加や地域交流など)と、民生委員や自治会長を通じた関係強化を図っていく。また、職員間の連絡先を火災通報装置にも登録して、迅速な行動ができるよう取り組んでいきます。	6ヶ月
2	30	利用者や家族、専門医を含めた医療関係者などの共有や緊急時の対応にも役立つ様に、一人ひとりの病状や受診状況、薬剤情報を記した個人受診記録票の検討を期待したい。	利用者の身体状況や医療関係者の意向、服薬の管理、家族の意向など、各職員が一読して解る個別ファイルの作成と、職員間の情報の共有及び連携の強化を図る。	今回の外部評価で指摘された個人受診記録票をさらに強化し、申し送りや職員会議などで職員間の情報共有に大いに役立っています。また、症状の変化や対応についても事業所研修などをおこない、知識・技術の向上にも努めています。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。